

第1回放送番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成24年6月12日 18:40開始
2. 開催場所 FMさつま2階会議室
3. 委員の出席
委員総数 8名
出席委員数 8名（内、委任状による表決者1名）
出席委員の氏名 加藤俊文委員 牧眞弘委員 中間隆志委員 井手聰委員 吉見満雄委員 堀嘉朗委員 下吉秀知委員
（委任状 藤崎剛委員）
放送事業者側出席者名 中崎宗治 中崎啓文 濱田英作
4. 議題
 1. 番組制作理念について
 2. 番組審議委員会規定について
 3. 番組編成基準及び放送番組の編集に関する基本計画について
 4. 放送番組の編成、及びその内容について

5. 審議内容

番組制作理念について FMさつまの番組制作理念について、中崎啓文より説明がなされ、

1. 鹿児島市南部の商業施設の発展がめざましいが、北部には鹿児島市の水がめとなる清流があるなど、北部に特有の価値がある。物の豊かさではなく、鹿児島市北部の心の豊かさを発信する
2. 地域に根ざした情報を自ら収集し、その地域でしか手に入らない質の高い現地の情報を発信する。小さくても質の高いモノを作り上げる町工場のような情報発信を行う。
3. 防災情報が聞こえる放送、心豊かな街になるための情報を発信し人と人がつながっていくような放送を作り上げる。

という番組制作理念が説明された。議長がこの件について、委員に意見を諮ったところ、満場一致で承認された。

別紙資料に掲載された、番組審議委員会規定について、議長が委員に可否を諮ったところ満場一致で承認された。

この後、中崎宗治より番組編成基準の説明がなされた。番組放送時間を見直し、6：00から24：00の放送時間に変更する措置をとった事、防災上の役割からやはり鹿児島市との防災協定を結んでいく方針である事、が説明された。その後、中崎啓文より番組プログラムの方針の変更に関して、現状が番組が曜日時間帯関係なくバラバラに行われているのに対し、今後は曜日時間帯に合わせて統一感のある番組プログラムに変更されていく方針である説明がなされた。それに対し中崎宗治が補足を説明した。吉見委員より、こういう規則性のあるプログラムのほうが、良いという賛成意見が出た。さらに吉見委員より、支所機能の代替をすること、つまり伊敷団地にある老人ホームの迷い老人情報や伊敷支所の掲示板の音声版を担うなど、面白いやり方があるとの提案。さらに伊敷地域ワークショップという団体が伊敷地域検定をおこなっているが、是非FMさつまとの連動を、そして高齢者は、鹿児島市広報誌などの紙媒体を読みたくないという実情があるので、ぜひその音声版の発信をとの要望がなされる。

加藤委員より、日曜日の放送は音楽だけなのか？との疑問。日曜日は体制的な問題から現在は音楽体制。吉見委員より日曜の番組について、高齢者層は日曜日は売り出し情報を聞くとの情報提供。ぜひともそういった枠を用意した方が良いとの提案がなされた。加藤委員より防災について、防災対策の体制はあるのか？との疑問。中崎宗治より現在まだ作成中だが間に合っていないとの説明。これから形になっていく途上であることの説明がなされた。

議長より他の委員より、何かないか促すと牧委員より、地域の子どもたちによる本読みの番組コンテンツがすばらしいとの賛成意見。中間委員より、生放送でなくてもよいが、地域自治会や各種団体の取り組みの様子などを放送して欲しいとの要望があった。加藤委員より、公民館を情報ソースに取り込む事、各学校の教頭先生などとのつながりで得られる情報の有用さの提案があった。また鹿児島弁のラジオドラマ、人生相談などの提案があり、それを受けて、吉見委員よりそういう事例の中で子育て相談が引き出せた事例があるとの紹介。下吉委員より、現在のラジオ受信機は、高齢者層が周波数に合わせやすい環境なのかとの問題提起、ラジオ、またそのほかの方法でチューニングに誘導する事にもケアが必要では？堀委員よりも同様に電波強度の地域格差などの問題から、周知の重要性を提案があった。